
だいすき

ちひろ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
だいすき

【コード】
N8556I

【作者名】
ちひろ

【あらすじ】
ちひろにとって、最初で最後のとても大きく、そして、とても儂い愛だった。

(1) だいすき

君の横で、君と手をつないで

同じ道を、一緒に歩いて、

そして2人で大人になっていく。

それが、当たり前だと思ってた

そんなあたしはまだ幼くて

何ひとつ守れない弱虫だった

そんな、アタシだけど

君への想いは変わらない。

君に恋をしてから、今も変わらず

ただ、ただ、君がだいすき。

だいすきなんだ……

(2) 普通の日々(前書き)

田舎での本当の話なんで、言葉とかわからなかったらスイマセン。

(2) ・普通の日々

キーン コーン・・・

「あゝ やつとお昼じゃあ」

「今日天気いいしさ、外でごはん食べようで」

「お、ええなー！ちろも行くよな…ってー!!」

かのとひろみがそんな話をしていることなどお構いなしに、アタシは自分の机の上につつぶせに寝ていた。

「コイツいつから寝とった？ひろ」

「うーん…たぶん数学の授業始まる前から…じゃないん？」

「…じゃあアレするか」

「あはっするか!」

・・・

「…うぢぢあはっはっは やめっ、ひいいい、ひゃはっははっは

「ーっ」

突然アタシの脇腹に違和感がした。

「これくらいでええか」

「・・・はあはあ・・・つちよ、毎回それして、お、起こすんやめてくれん...?」

「じゃけど、ちろこつでもせんと起きんじやるつ?なあ?なあ?」

「・・・うん」

押しに弱いところは本当にアタシの悪いところだと思う。

外にでると、暖かい風がこちよく吹いていて、何かいいことがありそうな予感がした。

そして、それが本当になるとは...

「今日お弁当じゃしー...コンビニでええ言つたのに...」

「わかるわかるー!なんか張り切って作るんじやる?かのんの親もそうじゃもん」

「じゃあちろのと交換するかあ?コンビニじゃで」

「え!それはそれで悪いがん?じゃけんお弁当で我慢するで」

「どつちなん...て、ああ!みてみて」

かのんがいきなりある方向に指をさした。

その先には...

「やーん、超かつこええんじゃけどー!!」

「えー?目悪いけん見えんし...。ひろ!どれがかつこええ?」

「うえー?どれもひろのタイプじゃないんじゃけど...」

アタシたちが見ている方向には6人くらいの男子がアタシたちからちよつと離れた場所ではんを食べていたのだ。

「アレじゃん!かのんが前からかつこいってゆつとった、ゆーへ

「くん！あゝもうヤバすぎ〜」

「ああ…山崎雄平？微妙じゃねえ？ちろ」

「いや・・・ちよっひろ！あの右から3番目の人の名前は!?!」

「ええ？えー…と 竜門由也じゃね？」

アタシは、小学校のころから視力が低下しだして、ちよっとな離れた場所でもぼやけて見えるくらい悪いのに、アタシには竜門由也君の顔だけはわかった。なんていうか…

「かつこよすぎい!?!?!?!?!惚れた！好き！」

「はあああああああゝ!?!?!」

この日からアタシの普通でつまらない日々は終わりを上げ、

恋の花色の日々が始まると思ってた…。

ねえ？君もそう思ってたでしょう？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8556i/>

だいすき

2011年10月6日01時22分発行